

2023.05.30

拓伸会創業 70 周年記念式典

2023 年(令和 5 年)6 月 1 日

(第一部)

会場 12 : 30 ~ 開会 13 : 30 ~

(国立劇場おきなわ)

(第二部)

組踊り

拓南製鉄の成立から

- | | | |
|-------|--------------------|--|
| 1953年 | (S28.12) | 拓南商事設立 |
| 1956年 | (S31.6) | 拓南伸鉄(株)那覇市壺川に設立 資本金 600 万 B 円 |
| 1959年 | (S34.1) | 拓南製鉄(株)に社名変更 |
| 1961年 | (S36.9) | 1号炉(5 屯電気炉)落成
「拓鉄興琉」の社是 |
| 1973年 | (S48.4) | T-コン・ダイヤ形鉄筋開発 |
| 1974年 | (S49.4) | 拓伸会発足 |
| 1978年 | (S53.2) | 浦添工場に本社移転 |
| 1987年 | (S62.3) | 本社を壺川拓南ビルへ移転 |
| 1995年 | (H7.3) | 新中城工場 JIS 工場認可、操業開始 |
| 2006年 | (H18.8) | 新 JIS 認証取得 |
| 2008年 | (H20.8) | 東京鐵鋼とネジテツコン生産(OEM)提携 |
| 2009年 | (H21.5)
(H21.9) | T-コンフープ評定取得(日本建築センター)
ISO9001 審査登録 |
| 2010年 | (H22.3)
(H22.8) | シルバー認定鉄筋認定取得(国土交通省)
パワーリング 785 評定取得(日本建築センター) |
| 2011年 | (H23.4) | 高強度異形棒鋼 SPR785 認定取得(国土交通省) |
| 2014年 | (H26.7) | 福岡営業所設置 |
| 2017年 | (H29.4) | 鹿児島営業所設置 |
| 2019年 | (R1.7) | 沖縄市海邦町へ本社移転 |

県経済を支える企業グループの中心として、拓南製鐵は沖縄とともに発展してまいります。

県民生活に深く関わる製造業者として、また県経済を支える企業グループの中心として、拓南製鐵は沖縄とともに発展してまいります。

SERVICE 事業紹介



製造

沖縄の鉄スクラップを電気炉で熔融し、沖縄の建造物を支える鉄筋を製造しています。拓南製鐵はお客様に純県産品の製品をお届けします。



販売

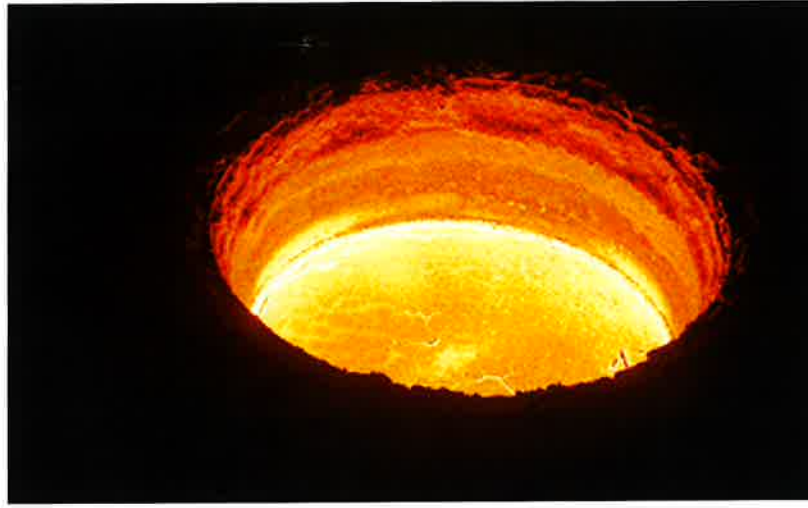
県内鉄筋メーカーだからこそできる、素早く正確なデリバリー。拓南製鐵は常に適切な在庫を備え、お客様のご注文にタイムリーにお応えします。

製造工程



1. 集める

離島を含め沖縄県内全域から鉄スクラップを集荷しています。



2. 溶かす

鉄スクラップの原料約80トンを経電炉で溶かします。



3. 固める

角棒状に成形し、1本が約1.5t、長さ約10.5mとなります。これを鑄片(ちゅうへん)と呼びます。



4. 延ばす

鑄片を、回転する圧延ロール間を通して、細長く延ばします。



5. 品質試験

厳しい眼で試験を行い、確かな品質を確保しています。



6. 出荷

お客様の元へ素早く正確に製品をお届けします。



製造工程の詳細はこちら

[鉄のリサイクルページへ](#)

設備保全



1. 保全部隊

製造ライン設備の保守・点検や分解整備などを行う、設備保全の要です。



2. 製缶部隊

鋼板や形鋼を切断・溶接などを行い、製造ラインに使用される部品や設備の製作・補修を行っています。



3. 機械加工部隊

NC旋盤やマシニングセンタを用いて製缶で製作された溶接構造物やシャフトなど精度を必要とする部品の加工を行っています。

製品紹介



1. T-コン

ダイヤ節が特徴の鉄筋で、弊社の主力製品です。JIS規格のD10以上のサイズ、長さは3.5m～12.0mまで0.5m単位で取りそろえ、お客様の要望にお応えしています。



2. ネジテツコン

節がネジ状になっており、専門技術が無くても簡単に継手の施工ができる鉄筋になっております。継手作業は、天候にも左右されません。継手とは、鉄筋と鉄筋をつなぐ事を言います。



3. T-コンフープ

主筋を取り囲む帯筋は、通常は鉄筋を曲げるだけ加工されますが、T-コンフープは溶接により両端を接合した、閉鎖形と呼ばれる帯筋です。通常の帯筋より変形に強く、耐震性に優れます。



製品紹介の詳細はこちら

[製品紹介ページへ](#)

納入実績



1. ワイズエステムコートライカム



2. サンエー大湾シティ



3. 沖縄空手会館

明治維新、日本には見るべき資源はないに等しかった。しかし柔道の精神、相手の力を利用して技をかける極意により、欧米の知識や技術を使って、植民地化されず、侵略を食い止め、日本であり続けた。

「島」には原料も資源もなかった。しかし「ない」ということで終わればそれで終りだ。「ない」に挑戦する必要がある。

地元に「鉄」がない。60年前の沖繩の住宅はほとんど全てが木造であった。台風が来るたびに木造の建物は破壊され、その修理のためには木材が必要となる。山林資源の乏しい沖繩では本土から移入する。木材商は、そうして商売は成り立ったが、沖繩の人々は毎年損をするだけで貧しくなるばかりだ。しかし沖繩には「何もない」と諦めてはそれで終りである。

「ない」ではなく「ある」という発想が大切だ。その創業者は、沖繩には、台風で壊れない建物の需要は無



「ない」ではなく「ある」の発想

限に「ある」のではないか。鉄筋コンクリートの建物の必要性が「ある」、それが地域の産業の使命だと考えた。その考えを実行し、鉄鉱石もない沖繩で製鉄業（電炉）を起こし、今や全国の1%超のシェア、本土の電炉メーカーと遜色のない財務内容と企業にまで成長させた。そして沖繩の建物は90%以上が鉄筋コンクリートとなって、台風の被害は著しく減少した。

結局、この創業者は資源の乏しい沖繩でも真の資源は「ある」、やらねばならない企業の使命が「ある」と考えた。「ない」で済ませばそれから先は何もなかったかもしれない。「ある」と判断し、それに挑戦した。アナログからデジタルへ、情報技術の発達はめまぐるしく、全ては新しいものへ転換している。しかし、「ない」ではなくて、「ある」の発想、それが企業家の勇気と使命であり、真のイノベーションを起こすものではないだろうか。

■ニュース・報道部
098-865-5153
■広告宣伝部
0120-43-5059
■読者サービス部
0120-39-5069
■本社編集部
098-865-5253
■本社総務部
098-865-5656

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

第39848号

2020年1月4日 曜日
1月4日 曜日
（旧暦12月10日・癸卯）

〒900-0001 沖縄県那覇市
〒900-0001 沖縄県那覇市